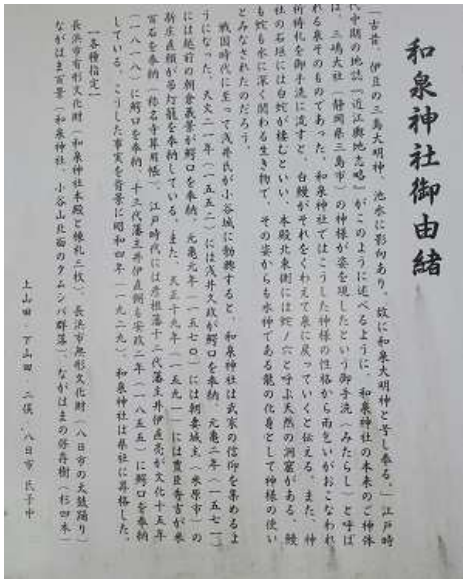
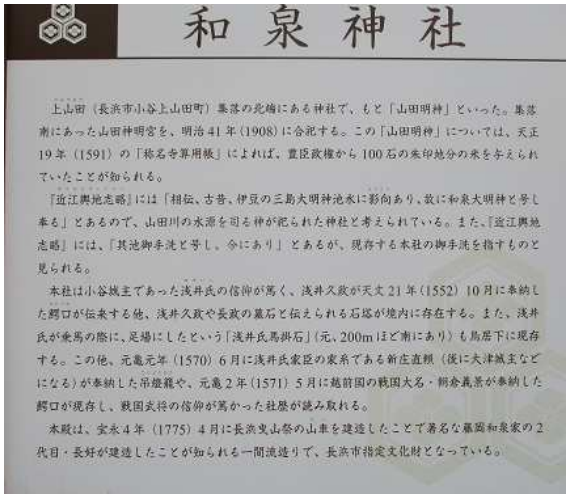
2021,2,28　自然・歴史探訪　山田山トレッキング準備記　～小谷城攻めで織田軍が布陣したところ～

山田山の準備に行きました。マンサク・馬酔木の花が少し咲いていました。里山整備（倒木処理・道標の赤テープつけなど）・コースタイム調査・アクセス状況・危険個所の確認・見所など準備に行きました。あまり登られていないようで、倒木処理に時間がかかりました。登山口の和泉神社も歴史が古く、豊富巨木ですし、幹回り６ｍの杉の巨木があり楽しみです。

山田山は、室町時代後期（戦国時代）於ける覇権争いにより、歴史的にその名知られるが小谷城の攻防で、山田山の西部山域に織田軍（佐久間信盛・柴田勝家ら）が布陣し、朝倉勢の小谷城への援軍を阻止するために設けられた戦場です。これにより、朝倉の援軍は小谷城に近づけず引き返すことになります。実際に戦場であったところを体感し、みなさんで、歴史ロマンを語り合いましょう。皆さまのご参加をお待ちしています。

◆歴史　和泉神社　山田山の西方の織田軍の陣跡　　歴史満載・・！　大いに語り合いましょう・・！！


和泉神社御由緒


和泉神社

上山田（長浜市小谷上山田町）集落の北端にある神社で、もと「山田明神」といった。集落南にあった山田神明宮を、明治41年（1908）に合祀する。この「山田明神」については、天正19年（1591）の「称名寺算用帳」によれば、豊臣政権から100石の朱印地分の米を与えられていたことが知られる。

『近江輿地志略』には「相伝、古昔、伊豆の三島大明神池水に影向あり、故に和泉大明神と号し奉る」とあるので、山田川の水源を司る神が祀られた神社と考えられている。また、『近江輿地志略』には、「其池御手洗と号し、今にあり」とあるが、現存する本社の御手洗を指すものと見られる。

本社は小谷城主であった浅井氏の信仰が篤く、浅井久政が天文21年（1552）10月に奉納した鰐口が伝来する他、浅井久政や長政の蓋石と伝えられる石塔が境内に存在する。また、浅井氏が乗馬の際に、足場にしたという「浅井氏馬掛石」（元、200mほど南にあり）も鳥居下に現存する。この他、元亀元年（1570）6月に浅井氏家臣の家系である新庄直頼（後に大津城主などになる）が奉納した吊燈籠や、元亀2年（1571）5月に越前国の戦国大名・朝倉義景が奉納した鰐口が現存し、戦国武将の信仰が篤かった社殿が読み取れる。

本殿は、安永4年（1775）4月に長浜曳山祭の山車を建造したことで著名な幕末和泉家の2代目・長好が建造したことが知られる一間流造りで、長浜市指定文化財となっている。

和泉神社

山田神社

浅井久政奉納　鰐口

伝　浅井氏馬駆石

◆トレッキングコースの状況　　自然たっぷり、小谷城攻防について、歴史ロマンを語り合いましょう。

登山口

あずま屋からの眺望

山頂近く

山田山山頂

次ページへ

◆里山整備　　倒木が多かったです。登山道が塞がっているところが何カ所もありました。

→

→

→

◆自然観察

和泉神社のヤブツバキ
これも巨木です

幹回り　６ｍ　の杉が４本
みなさんで確かめましょう

アセビの花

タムシバの花

マンサクの花

みなさまのご参加をお待ちしています